



予定外で自身のヒット曲「桜」を学生たちに贈った河口さん(山科区)

「コロナ禍」若者へ応援歌

河口恭吾さん 京都橘大初訪問

京都橘大(山科区)の学生たちと楽曲制作に取り組むことになったシンガー・ソングライターの河口恭吾さん(47)が3月末、大学を初めて訪れた。楽曲は、長引くコロナ禍で思い通りにならない日々を過ごす若者たちを支える「応援ソング」として作る計画だ。午後の数時間、学生たちと対話を重ね、ともに楽曲のイメージを膨らませた。

3月25日の午後。河口さんは、制作のために学内で結成したプロジェクトチームに参加している学生たちに語りかけた。「若いみなさんがコロナ禍をどのように過ごしてきたのか、今どんなことを考えているのか知りたい。それが僕の純粋な思い」

学生たちは、コロナ禍が自分たちに強いた不自由さ、つらさを思い起こし、自らの経験を言葉にして河口さんに伝えた。

「高校の卒業式がまままま地元の岡山から京都に来て、入学式もないまま大学生になった」「オンラインで話をするのが苦手な私は、今も親友と呼べる友達がいらない」「マスクの向こう側にある『素顔』を見たことがない人ばかり。感情がわからなくて、つながりが希薄になっていく」

自身も思うようにライブ活動をできなくなったという河

対話深め楽曲制作

口さんは、一人一人の経験を、深く考え込むようにして聴いていた。

河口さん自身、若い世代と対話を重ねて楽曲制作に向き合うのは初めてのことだという。「学生時代に育まれるはずのいろんなものが、コロナ禍に阻まれたんだと改めて感じた。僕にとっても学生たちにとっても『何かを学ぶ』プロジェクトになるのだと思う。自分がやってきたのとは違う視点で楽曲を完成させたい」。学生たちとの対話をこう振り返った。

初夏の完成を目指し、河口さんと学生たちはさらに対話を深める。